

ふなばしの自然

平成25・26年度 船橋市自然環境調査

調査の概要

船橋市の貴重な自然及び希少な保護すべき動植物や外来種等に関する自然環境状況を把握するために、現地調査を行いました。

現地調査は、平成11～13年度に実施した前回調査で比較的自然環境が残されている地域として調査が実施された地域のうちの16の地域で、植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物を対象に、平成25年の秋から平成26年の夏にかけて行いました。また、市全域を対象として、植生の分布図の作成も行いました。調査項目と調査地域は表1と図1に示しています。

また、三番瀬については、表2に示す千葉県が実施した調査結果資料から、船橋市の南部に位置するふなばし三番瀬海浜公園周辺の結果を整理しました。

表1 調査項目および現地調査地域

調査項目	現地調査地域
植物	全16地域
哺乳類	全16地域
鳥類	全16地域 (St.14-2含む)
両生類	全16地域
爬虫類	全16地域
昆虫類	全16地域
魚類	St.3、5、7～10、13～16地域
底生動物	St.3、5、7～10、13～16地域
植生の分布図	市全域

表2 整理項目とした三番瀬の調査結果

整理項目	調査名
鳥類	平成25年度調査
魚類	平成19年度調査
底生動物	平成18年度調査

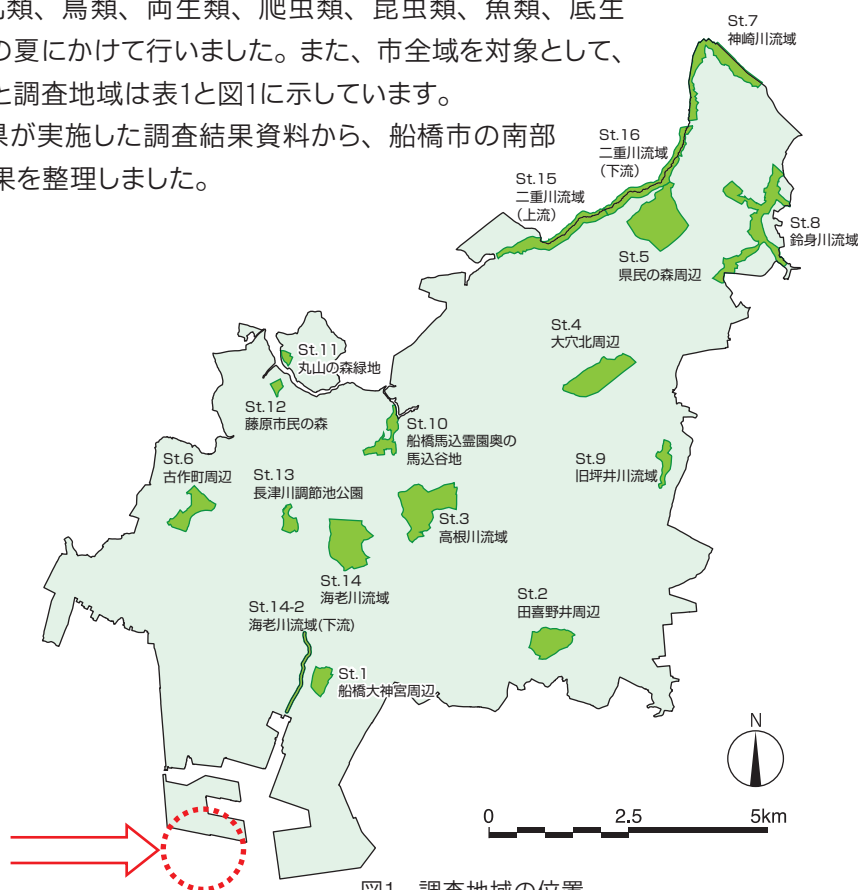


図1 調査地域の位置

表3 確認種数

調査項目	確認種数 全16地域 (現地調査)
植物	885種
哺乳類	11種
鳥類	80種
両生類	6種
爬虫類	13種
昆虫類	857種
魚類	29種
底生動物	150種

調査の結果

現地調査の結果、植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類は、主に市街地から低山の樹林や河川周辺、水田や畑地の耕作地などに生育・生息する種が確認されました。

魚類、底生動物は、河川の中下流域に生息する種や、水田や湿地に生息する種が中心であり、そのほか、里山の細流などに生息する種が確認されました。現地調査で確認された種数は、表3に示しています。

また、ふなばし三番瀬海浜公園周辺では、鳥類が73種、魚類が37種、底生動物が95種確認されています。

重要種※1

現地調査の結果、植物では、主に樹林で見られる種の確認が多く、ジウニヒトエなどの明るい雑木林や林縁などで見られる種も確認されました。また、哺乳類では、イネ科の背の高い草を営巣に利用するカヤネズミが確認されました。その他、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類では、オオヨシキリ、ニホンアカガエル、ニホンスッポン、コオイムシなどの主に水辺環境やその近辺で見られる種が多く確認され、魚類、底生動物では、ドジョウ、スジエビなどの水田、湿地、池沼、中下流域の河川で見られる種が多く確認されました。（表4参照）

表4 確認された重要種一覧

植 物	アカシデ、アマナ、イカリソウ、イワガラミ、ウスグチョウジタデ、ウメモドキ、エビネ、オオアゼテンツキ、オシダ、オニグルミ、オニスゲ、カザグルマ、カタクリ、カワヂシャ、キンラン、ギンラン、クゲヌマラン、クマシデ、コクラン、コバノタツナミ、コバノヒノキシダ、コムラサキ、ササバギンラン、ササバモ、ジウニヒトエ、セイタカヨシ、セリバオウレン、センリョウ、タシロラン、ハシバミ、ヒメナミキ、ホルトノキ、マツバラン、ミクリ、ミズニラ、ヤブサンザシ、ヤブスゲ、ヤブムグラ、ヤマブキソウ	39種
哺乳類	カヤネズミ、ジネズミ	2種
鳥 類	アオゲラ、イカル、イソシギ、イソヒヨドリ、イワツバメ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オオルリ、カイツブリ、カケス、カワウ、カワセミ、キセキレイ、キビタキ、クサシギ、クロジ、コサギ、コチドリ、スズガモ、セッカ、ダイサギ、ツバメ、ツミ、トラツグミ、ノスリ、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ホオジロ、ホオジロガモ、ホトトギス、ミソサザイ	34種
両生類	アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル	4種
爬虫類	アオダイショウ、クサガメ、シマヘビ、ジムグリ、ニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホンスッポン、ニホンマムシ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ヒバカリ、ヤマカガシ	12種
昆虫類	アオヤンマ、アサギマダラ、ウチワヤンマ、ウマノオバチ、エゴヒゲナガゾウムシ、オオサカアオゴミムシ、オオミズスマシ、カトリヤンマ、キアシネクイハムシ、キイロサナエ、キシタアツバ、キヒゲアシブトハナアブ、ギンイチモンジセセリ、クズハキリバチ、クロスジギンヤンマ、コオイムシ、コガムシ、コシロシタバ、コハンミョウ、コムラサキ、スゲハムシ、チョウトンボ、ハラビロトンボ、ヒゲナガハナノミ、ヒメジウジナガカメムシ、ヒメマイマイカブリ、ヒメマダラナガカメムシ、ヘイケボタル、ホソミイトンボ、マルガタゲンゴロウ、ミドリシジミ、ミヤマチャバネセセリ、ムスジイトンボ、ヤブヤンマ、ヤマトタマムシ、ヨコヅナツチカメムシ、ルリクチブトカメムシ	37種
魚 類	ギンブナ、スナヤツメ類、ドジョウ、ナマズ、ニゴイ、ニホンウナギ、ヌマチチブ、ホトケドジョウ、メダカ南日本集団、モツゴ	10種
底生動物	イシガイ、ウキクサミズゾウムシ、ウチワヤンマ、オオミズスマシ、カトリヤンマ、キイロサナエ、コオイムシ、コガムシ、サワガニ、スジエビ、セスジイトンボ、テナガエビ、ホンサナエ、マダラコガシラミズムシ、マルガタゲンゴロウ、マルタニシ、ミゾレヌマエビ、モクズガニ	18種



オオタカ



ジウニヒトエ

※1 環境省レッドリストまたは千葉県レッドデータブックの掲載種、「種の保存法」の指定種のことを指しています。

特定外来生物※2

植物では、オオキンケイギク、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、オオカワヂシャ、両生類ではウシガエル、魚類ではカダヤシ、ブルーギル、オオクチバスが確認されました。

こうした特定外来生物が増加すると、もともとその場所にいた動植物が減って、生態系のバランスが崩れる恐れがあります。

船橋市では、河川や池沼、またその周辺の湿地や草地で多く確認されており、注意が必要です。



オオキンケイギク



オオクチバス

※2 特定外来生物とは、外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす種、または被害を及ぼすおそれがある種で、「外来生物法」によって指定されています。これらの種は飼育、栽培、運搬などが原則禁止されています。

前回調査からの変化

前回調査と比較すると、地域によっては前回調査で確認された動植物が今回の調査結果では確認されなかったなど、前回調査から変化が起きた動植物もありました。

その原因として、生育地・生息地の減少、耕作していない水田の増加や耕作しないことによる環境の変化、草刈などによる除草や除草剤の使用などが考えられます。(表5参照)

表5 確認されなかった地域がある動植物と考えられる原因

考えられる原因	確認されなかった地域がある動植物
宅地化等による生育地・生息地の減少	キンラン、ジウニヒトエ、フナバラソウ、ノジトラノオ、カヤネズミ、カイツブリ、バン、アズマヒキガエル等
耕作していない水田の増加や耕作しないことによる環境の変化	ミズニラ、コウホネ、サジオモダカ、アギナシ、ヒキヨモギ、チュウサギ等
草刈などによる除草	コバノタツナミ、イヌノフグリ等
除草剤の使用	ミズニラ、コウホネ、サジオモダカ、アギナシ等



カヤネズミの巣



キンラン

調査地点別の結果 (St.1 ~ 8)

St.1 船橋大神宮周辺



船橋大神宮

ほとんどが市街地ですが、船橋大神宮などの寺社に樹林が点在する地域です。

石材が多いため、イノモトソウ、コバノヒノキシダといった庭石に着生する植物が確認されました。水域はほとんどありませんが、わずかに存在する小規模な池ではアズマヒキガエルのおたまじゃくしが多数確認されました。一方、トンボ類などの水辺でよく見られる昆虫類は確認されませんでした。



アズマヒキガエル

St.2 田喜野井周辺



田喜野井公園

ほとんどが市街地ですが、田喜野井公園などに樹林があり、その他少ないながらも田畑や草地があります。

クヌギ、コナラを主体とした樹林や竹林が点在しています。

調査地域の南部に調節池がありますが、水がたまっているのは一部で、カワヂシャやヨシなどの湿地に生育する植物は、確認されましたが、水鳥や両生類などは確認されませんでした。



カワヂシャ

St.3 高根川流域



高根川

高根川、宮前川を中心とした2つの谷津がつながる地域です。

高根川周辺の低地は、水田、ヨシ原などとなっており、イヌビエ、アゼナなどの水田雑草やマルタニシ、コオイムシなどの底生動物が確認されました。

台地には畑地が多く、スギナ、シロザなどの畑地雑草やヒバリなどの鳥類が確認されました。低地と台地の間の斜面は、クヌギ、コナラなどからなる樹林や竹林となっています。



マルタニシ

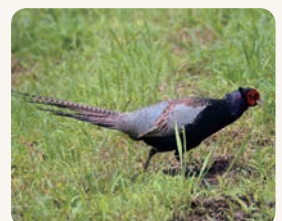
St.4 大穴北周辺



木戸川

木戸川を中心とした谷津が広がる地域です。

木戸川付近は、耕作していない水田や畑が多く、背の高い草地となっており、こうした環境を営巣に利用する哺乳類のカヤネズミや鳥類のオオヨシキリなどが確認されました。台地には畑地、果樹園などのほかに、樹林も点在しており、特に北船橋給水場の北側の樹林では林床が手入れされており、明るい樹林に生育する植物も確認されました。こうした樹林や田畑、河川敷の草地などでは、キジなどの鳥類も確認されました。



キジ

St.5 県民の森周辺



県民の森

県民の森を中心とするまとまった樹林や白幡川沿いに湿地が存在する地域です。

樹林は、下草刈りなどの管理がされており、ジュウニヒトエなどの主に明るい樹林で生育する植物が多く確認されました。また、コゲラ、アオゲラ、アカハラ、キビタキ、トラツグミなど主に樹林で見られる鳥類も確認されました。

また、北東部は、ハンノキ、ヤナギなどからなる湿地となっており、ヘイケボタルなどの主に湿地で見られる昆虫類や魚類が確認されました。



キビタキ

St.6 古作町周辺

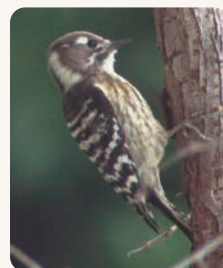


上山公園

上山公園や帯状に分布する斜面にある樹林、点在する畑地のほかは、多くを住宅地が占める地域です。

クヌギやコナラを主体とした樹林では、コゲラ、ツミなどの主に樹林で見られる鳥類が確認されました。

上山公園内には、葛飾川の源流となる湧水が存在し、湿地で見られる昆虫類や底生動物も確認されました。



コゲラ

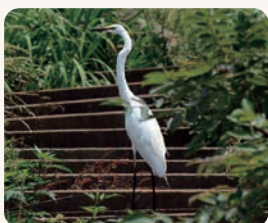
St.7 神崎川流域



神崎川

二重川と神崎川が合流し、周辺には水田、耕作していない水田、畑地などが広がる地域です。

河川内では、中流域から下流域に生息するハグロトンボ、ナカハラシマトビケラなどの昆虫類が確認されました。また、神崎川では、二重川に比べて河川沿いにヨシ原が多く、これらを営巣場所として利用する哺乳類のカヤネズミや鳥類のオオヨシキリなどが確認されたほか、カワウ、ダイサギなどの水鳥も多く確認されました。



ダイサギ

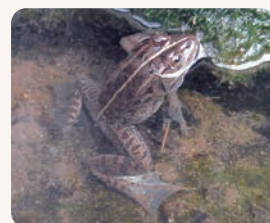
St.8 鈴身川流域



鈴身川周辺の風景

鈴身川を中心とした谷津が広がる地域です。

御竹橋より下流側は、河床はコンクリート張りになっていますが、一部砂礫が堆積しているところではイシガイなどの底生動物が確認されました。一方、上流側は、河床は泥であったため、下流に比べ、泥質を好むドジョウが多く確認されました。水田や周辺用水路ではトウキョウダルマガエル、ニホンアママガエル等の両生類が確認され、これらを食べるヒバカリ、ヤマカガシ等の爬虫類も確認されました。また、カルガモ、カワウなどの水鳥も確認されました。



トウキョウダルマガエル

調査地点別の結果 (St.9 ~ 16、三番瀬)

St.9 旧坪井川流域



坪井近隣公園

近年、宅地化や公園整備により、樹林や草地などが大きく減少した地域です。

坪井近隣公園内の調整池では、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワセミなど水域を利用する鳥類が多く確認され、重要種のモツゴ、ギンブナ、ヌマチチブがヨシ等の生える水際で確認されました。また、船橋日大前駅の南側には、コナラを主体とした明るい樹林やホタル池があり、ホタル池では、ヨシ、ヒメガマなどの湿地に生育する植物が確認されました。



キンクロハジロ

St.10 船橋馬込霊園奥の馬込谷地



金杉川

東西に流れる北谷津川とその支川の金杉川を中心とした谷津で、水田や耕作していない水田が広がる地域です。

北谷津川、金杉川周辺の水田、湿地、池などの水域では、カルガモ、カワセミなどの鳥類やアズマヒキガエル、ミシシippアカミミガメなど水域に生息する両生類・爬虫類が比較的多く確認されました。

また、金杉川の水域では、シマアメンボ、チョウトンボなどの昆虫類が確認され、オニヤンマのヤゴも確認されました。



オニヤンマのヤゴ

St.11 丸山の森緑地

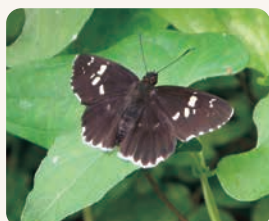


丸山の森緑地

市街地に囲まれた小規模なクヌギ、コナラを主体とした樹林で、市民の手で管理されている地域です。

林床は手入れがされており、主に明るい樹林に生育する重要種が確認されました。また、鳥類のコゲラ、キビタキ、昆虫類のダイミョウセセリなどの主に樹林で見られる動植物も確認されました。

調査地域には、水域がなく、両生類は確認されませんでした。



ダイミョウセセリ

St.12 藤原市民の森

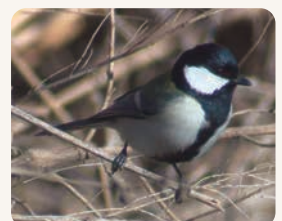


藤原市民の森

小規模なクヌギ、コナラを主体とした樹林であり、市民の手で管理されている地域です。

林床は手入れがされており、明るい樹林に生育する植物が多数確認されました。また、鳥類のコゲラ、シジュウカラ、エナガ、昆虫類のミヤマカメムシ、ナガゴマフカミキリなどの主に樹林で見られる動植物も確認されました。また、渡りをする昆虫類のアサギマダラも確認されました。

調査地域には、水域がなく、両生類は確認されませんでした。



シジュウカラ

St.13 長津川調節池公園



長津川調節池公園

長津川とその調節池が一体的に整備された公園で、調節池の周りはヨシやヤナギなどからなる湿地が存在する地域です。

長津川では、海からの連続性が保たれている河川で見られるウグイ、アユなどの海と河川を行き来する魚類やボラなどの汽水・海水に生息する魚類も確認されました。

調節池内の湿地では、カワヂシャなどが確認されました。また、ギンヤンマ、シオカラトンボなど主に止水域で見られる昆虫類も確認されました。



シオカラトンボ

St.14 海老川流域



海老川流域

海老川の支川である北谷津川、念田川などの複数の河川とその周辺の平地に水田、畑地、草場が広がる地域です。

北谷津川の下流部には植物の生育する洲があり、魚類が多く確認されました。また、北谷津川では、ニホンウナギやモクズガニなどの海と河川を行き来する魚類や底生動物が確認されました。また、ヒドリガモ、カルガモ、カワウなどの水鳥も確認されました。



カルガモ

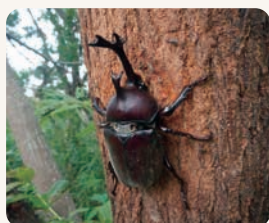
St.15 二重川流域 St.16



二重川

二重川を中心に、周辺の低地に草地や畑地が広がる地域です。

河川に沿って、オギなどの草場が広がり、南西部に多い畑地では、スベリヒユ、ウシハコベなどの畑地雑草が確認されました。こうした場所ではホオジロなどの草地や畑地で採餌・繁殖を行う鳥類が確認されました。また、ヤナギ、ハンノキなどの湿地に生える樹木からなる樹林も点在し、樹液が出ているヤナギなどがある箇所では、ノコギリクワガタ、クロカナブン、カブトムシなどの樹液に集まる昆虫類が確認されました。



カブトムシ

ふなばし三番瀬海浜公園周辺



ふなばし三番瀬海浜公園周辺

ふなばし三番瀬海浜公園周辺の干潟、浅海域が広がる地域で、三番瀬の一部です。

千葉県が実施した三番瀬の調査では、浅海域に広く生息しているマハゼ、アマモ場などに多く生息するニクハゼなどのハゼ類、アサリ、オキシジミ、サクラガイなどの二枚貝やミズヒキゴカイといったゴカイ類などの底生動物が確認されています。また、貝類、ゴカイ、甲殻類などの底生動物を餌とするスズガモ、ハマシギ、ダイゼン、ミヤコドリや、魚類を餌とするカワウなどの鳥類も確認されています。



ハマシギ

植生の分布図

植生の分布図の作成結果を図2に示しています。樹林や果樹園は北部を中心に分布しており、特に樹林は谷津などの斜面に多く分布しています。畑地は、北部や中央部を中心に、河川沿いから一段上がった台地などに多く分布しています。水田は、河川沿いを中心に分布し、水面部は、海老川、桑納川、神崎川とその支流などの河川や、調節池などの池沼が分布しています。

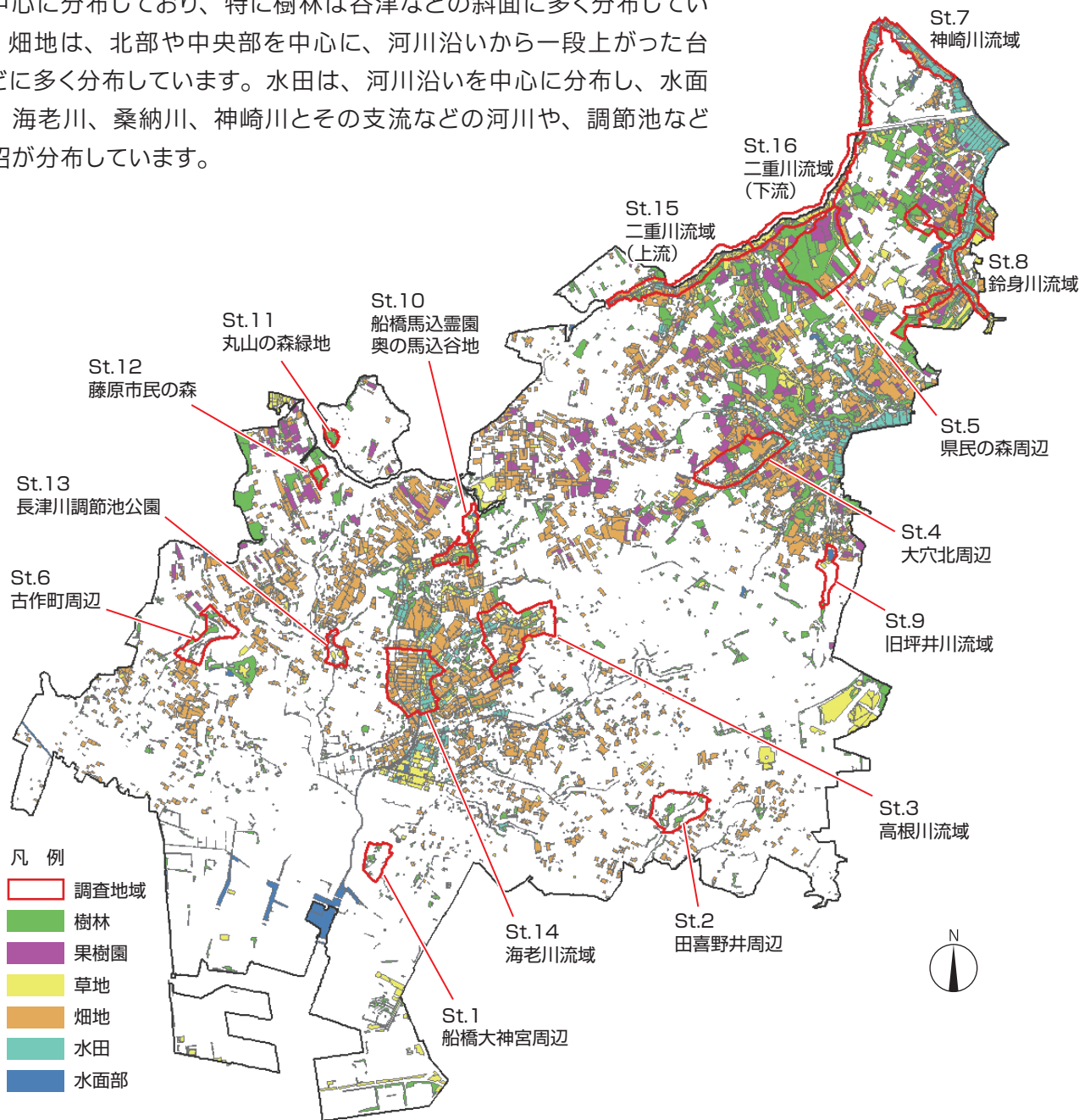


図2 植生の分布図

ふなばしの自然 平成25・26年度 船橋市自然環境調査

平成27年4月発行

発行 船橋市

編集 船橋市 環境部 環境政策課

〒273-8501 千葉県船橋市湊町2-10-25

TEL: 047-436-2450

FAX: 047-436-2487

E-mail: kankyoseisaku@city.funabashi.lg.jp

受託者 パシフィックコンサルタンツ株式会社

自然散策マップ

自然を楽しみながら散策するための自然散策マップ10コースを作成しました。環境政策課や各公民館で配布するほか、市のホームページからもダウンロードできます。

